様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　４月２５日現在

機関番号：３２６１４
研究種目：基盤研究（Ａ）
研究期間：2007～2010
課題番号：１９２０２００９
研究課題名（和文）源氏物語の研究支援体制の組織化と本文関係資料の再検討及び新提言のための共同研究
研究課題名（英文）Organization of Supporting System for Studies on *The Tale of Genji* and Joint Researches for Reexamination and New Proposals on the Texts of *The Tale of Genji*
研究代表者：豊島　秀範（TOYOSHIMA　HIDENORI）
國學院大學・文学部・教授
研究者番号：90133272

研究成果の概要（和文）：本課題は、源氏物語諸伝本の再検討を通して新たな提言をおこなうことにある。そのために、若手研究者による未翻刻写本の翻刻を積極的に進めると同時に、「源氏物語河内本に関する研究」、「定家本を初めとする本文の註釈の生成過程に関する研究」、「本文データベースの構築」を推進した。併せて、諸本間の本文異同の傾向について、共同討議によって明らかにしてきた。外国を含めた１７回の共同研究会、研究報告書『源氏物語本文の再検討と新提言』第１～４号、研究書『源氏物語本文の研究』は、その成果の具体的な証である。
研究成果の概要（英文）：This study aims to present new proposals by reexamining manuscripts of *The Tale of Genji*. For this purpose, we encouraged young researchers to reprint manuscripts which had not reprinted, and supported the following projects: studies on Kawachi-bon of *The Tale of Genji*; studies on the generation of notes to the texts especially in Teika-bon; and the construction of the databases of the texts. Also, we revealed the tendencies in the differences of the texts among manuscripts. The results were reported in seventeen study meetings both in and outside of Japan, and recorded in *The Reexaminations and the New Proposals of the Texts of The Tale of Genji* (vols. 1-4) and *A Study of the Texts of The Tale of Genji.*

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	9,130,000	2,730,000	11,860,000
2008 年度	7,200,000	2,160,000	9,360,000
2009 年度	9,700,000	2,910,000	12,610,000
2010 年度	7,900,000	2,370,000	10,270,000
年度			
総　計	33,930,000	10,170,000	44,100,000

研究分野：文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：(1) 源氏物語　(2) 河内本　(3) 平瀬本　(4) 大島本　(5) 定家本　(6) 吉川家本　(7) 明融臨模本　(8) 天理河内本

１．研究開始当初の背景

(1)『源氏物語』の本文に関する研究は池田亀鑑の『校異源氏物語』（昭和 17 年）および『源氏物語大成』（昭和 28 年）をもってほぼ止まったままである。両書に収められた伝本は昭和 13 年までに発見されたものでそれ以後の 70 年間は空白のままである。

(2) しかし、昭和 13 年以降も『源氏物語』の写本は発見され続けている。併せて、池田亀鑑が最善本として『源氏物語大成』の底本とした大島本に対する本文上の疑念が研究者によって指摘され始めている。

(3)『源氏物語』本文の再検討が進まなかったのは、作品の大きさと、本文翻刻の困難さとにある。そこで、海外を含めた研究者と、若手の研究者とによる研究支援体制を整えることによって、本文資料の収集と再検討に取り組むこととした。

２．研究の目的

⑴ 本研究は、源氏物語本文関係資料の収集と、その再検討、および研究支援体制の確立を目指すことにある。

⑵ 本文関係資料の再検討のためには、従来の本文に加えて、新たな写本の翻刻が必要である。さらに、新たに翻刻した本文を加えた本文対校一覧を、巻ごとに作成して、データベースの基礎資料を作る。

⑶ 連携研究者および若手研究者、さらには海外の研究者をも含めた共同研究会を開催して、各々のテーマに基づく発表と質疑応答によって、各研究を深めていくことで、新提言へと向かうことを目的とする。

３．研究の方法

⑴ 翻刻により本文への関心を深める

多くの若手研究者が、新たな本文の翻刻作業を進めることで、従来のテキストとは異なる本文の存在を知り、関心を深め、研究発表へとつなげていく。

⑵ 共同研究会の開催

連携研究者および大学院生を中心とする若手研究者を交えた共同研究会を、九州・関西・関東などの大学を会場として、当該地域の研究者をも含めて行うことで、研究支援体制の拡大と定着をめざす。

⑶ 研究報告書の作成

年度ごとに研究報告書を作成し、その年度の共同研究会で発表した研究成果を中心に掲載して研究者に送付することで、研究に関心を持ってもらい、意見を寄せてもらうことで、さらに研究を深めていく。

４．研究成果

⑴ 研究の主な成果

「平瀬本」「七毫源氏」「吉川家本」などの翻刻と、17 回におよぶ源氏物語本文の　共同研究会を国内外で開催したことで、　第１の研究目的である源氏物語本文資料の収集とその検討、及び研究支援体制の確立に向けての基盤が整ったことは大きな成果といえる。

　若手研究者にも積極的に参加の機会を与えたことで、もう１つの目的である若手研究者の育成にも成果がみられた。

⑵ 得られた成果の国内外での位置づけ

イタリアのヴェネツィア大学での共同研究会の開催、イギリスのケンブリッジ大学ロビンソンカレッジでの国際学会、アメリカワシントンＤＣの議会図書館本の調査や、17 回に及ぶ内外での共同研究会で、国内の招待講演者 10 名、外国４名、研究発表は延べ 70 名を越えており、その研究成果を、年度ごとに研究報告書にまとめ、最終年度には研究書も作成して、国内外の研究者・研究機関に届けたことで、研究の目的・意義、およびその成果が理解されてきている。

⑶ 今後の展望

４年間の成果である研究支援体制と、収集・翻刻した源氏物語の本文資料を基盤として、未翻刻の本文についての研究など、源氏物語本文の実態についての研究をさらに進めるべく、新たに科研費を得て、その準備を進めている。

⑷ ４年間の共同研究会等の開催状況

平成 19 年度から 22 年度の４年間に開催した 17 回に及ぶ国内外での源氏物語の本文資料に関する共同研究会の開催状況は、以下の通りである。

平成 19 年度は、①「源氏物語本文の再検討と新提言のための共同研究会」を６回行なった。

第１回は、５月 18 日（於國學院大學）。研究代表者による本科研の研究概要と今年度の事業計画を説明し、内容を確認した。

第２回は、６月 23 日（於國學院大學）。本科研の研究者７名が、それぞれの研究テーマに基づいて研究発表を行なった。

第３回は、７月 28 日（於學院大學）。招待講演と研究発表。招待講演は藤本孝一氏（前文化庁主任文化財調査官）「古写本の姿―源氏物語「平瀬本」とは何か―」。研究発表は本科研の研究者７名が行なった。

第４回は、９月 29 日（於國學院大學）。招待講演は室伏信助氏（跡見学園女子大学名誉教授）「源氏物語のテキストはいかにあるべきか」。研究発表は本科研の研究者５名。

第５回は、11 月 24 日（於國學院大學）。招待講演は佐々木孝浩氏（慶応義塾大学付属研究所斯道文庫准教授）「『大島本源氏物語』の書誌学的考察・再説」。共同研究発表は本科研の研究員６名が行なった。

第６回は、12 月 15 日（於福岡女子大学）。招待講演は今西祐一郎氏（九州大学教授）「源氏物語の本文私見」と新美哲彦氏（呉工業高等専門学校専任講師）「鎌倉時代における『源氏物語』の書写態度―空蟬巻・陽明文庫本と河内本の関係から―」の２名。研究発表は本科研の研究者２名。併せて、本科研の研究者全員による総合討論を行なった。

②研究報告書『源氏物語本文の再検討と新提言』第１号を発行。招待講演５名の講演内容と、研究論文１０本、資料翻刻『平瀬本源氏物語』（匂宮・橋姫）を掲載した。

⑵平成 20 年度は、①「源氏物語本文資料の

再検討と新提言のための共同研究会」を、通算第７回～９回の、３回行なった。

通算第７回目は、６月 21 日（於國學院大學）。本科研の研究者７名が発表を行なった。

通算第８回目は、９月 11 日～12 日、イタリアのヴェネツィア大学の大講堂１にて、源氏物語千年紀を記念して、「源氏物語の成立と享受―絵と本文から―」のテーマのもとに、イタリアの日本文学研究者７名を加えた、計 16 名が、２日間にわたって、講演と、共同研究発表会を行なった。

１日目は、Maria Teresa ORSI（ローマ国立大学）の講演１「遠くから読む源氏（Genji Monogatari:Reading from Afar）」と、６名の研究者による研究発表が行なわれた。

２日目の午前中は、鷺山郁子氏（フィレンツェ大学）の講演２「越境する『源氏物語』」と、本科研３名の研究発表。

２日目の午後は、Carolina NEGRI（サレント大学）による講演３「恋と結婚の不安に苦悩する女性―紫の上の宿世―」と、４名の研究者による研究発表を行なった。

第９回は、11 月８日（於國學院大學）。「源氏物語絵　物語絵」のテーマのもとに、招待講演は高橋亨氏（名古屋大学大学院教授）「狭衣物語絵について」。研究発表は國學院大學蔵の「久我家嫁入本『源氏物語』」の絵と本文についての研究報告を、本科研の研究者と若手の９名が分担して行なった。

②研究報告書『源氏物語本文の再検討と新提言』第２号を発行。イタリアのヴェネツィア大学で行なった学会での、３名の講演内容と、１３名の研究発表論文を掲載。

(3) 平成 21 年度は、①「源氏物語本文資料の再検討と新提言のための共同研究会」を、通算第 10 回～第 14 回の、５回行なった。

第 10 回は、６月 27 日（於國學院大學）。招待講演は原國人氏（中京大学教授）「『国宝源氏物語絵巻』について思うこと」。研究発表は本科研の研究者６名が行なった。

第 11 回目は、7 月 25 日（於國學院大學）。研究発表を大学院生などの若手４名と、本科研の研究者１名が行なった。併せて、本科研の研究者全員により、源氏物語本文に関して、共同討議を行なった。

第 12 回は、10 月 10 日（於國學院大學）。招待講演は小山利彦氏（専修大学教授）「専修大学図書館所蔵『源氏の物語のおこり』試論―秀吉と源氏物語―」。研究発表は本科研の研究者５名が行なった。

第 13 回は、11 月 14 日（於國學院大學）。招待講演は横井孝氏（実践女子大学教授）「実践女子大学蔵明融本源氏物語の現状報告」。研究発表は、若手１名と本科研の研究者など３名が行ない、併せて源氏物語本文のデータベースの構築についての共同討議。

第 14 回目は、12 月 19 日、中京大学名古屋キャンパスにて、招待講演は岡嶌偉久子氏（天理大学附属図書館）「尾州家河内本源氏物語の書誌学的考察」。研究発表は本科研の研究者７名が行なった。

以上の共同研究会とは別に、本科研と国文学研究資料館と共催で「国際研究集会」を、９月 21 日に、イギリスのケンブリッジ大学ロビンソンカレッジにて開催。本科研からは、豊島秀範と、研究支援者の神田久義が参加した。神田は「物語の変容―源氏と寝覚―」について発表、豊島は全体を総括する Round Table と、Final Discussion Moderator を務めた。

②研究報告書『源氏物語本文の再検討と新提言』第３号を発行。原國人・小山利彦・横井孝・岡嶌偉久子４氏の招待講演記録と、本科研の研究者７名の論文と、若手研究者３名の論文を掲載。併せて、新たに翻刻した本文を含めて、「柏木」巻の主要 11 本の、本文対校一覧を作成して掲載した。

また、22 年１月 25 日～27 日に、アメリカワシントンＤＣの、アメリカ議会図書館において、本科研と国立国語研究所・国文学研究資料館との共同プロジェクトにより、平成 21 年に日本から流出した写本『源氏物語』五十四巻の調査と写真撮影を行なった。

(4)平成 22 年度は、①「源氏物語本文資料の再検討と新提言のための共同研究会」を、通算第 15 回～第 17 回の、３回行なった。

第 15 回は、６月 12 日（於國學院大學）。本科研研究者の７名の研究発表。併せて、「源氏物語本文に関する共同討議」を行ない、データベース構築について意見を交換した。

第 16 回は、９月 25 日（於國學院大學）。「源氏物語本文研究の新たな流れ」のテーマのもとに、国文学研究資料館の「基盤研究」と合同で行なう。本科研からの基調講演は名和修氏（陽明文庫・文庫長）「近衛家の源氏物語」、研究発表は２名が行なった。

第 17 回は、11 月 13 日（於國學院大學）。本科研の研究者６名と、若手の研究支援者の２名が研究発表を行なった。

②研究報告書『源氏物語本文の再検討と新提言』第４号を発行して、招待講演記録（名和修（陽明文庫）「近衛家の源氏物語」と、本科研の研究者４名の研究論文を掲載。また、「野分」「花散里」の両巻について、主要 13 本の本文による対校一覧を掲載した。

③基盤研究（Ａ）の４年間の研究成果の一

端として、研究書『源氏物語本文の研究』をまとめ、本科研の研究者５名の論文と、若手研究者３名の論文を掲載した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５４件）

１．豊島秀範「アメリカ議会図書館本『源氏物語』の実態―和歌の一行散らし書きと本文の特質―」『物語文学論究』（國學院大學物語文学研究会）第 13 号、査読無、2011、10～24。

２．豊島秀範「『源氏物語』本文の実態―吉川史料館蔵（毛利家伝来・大内家伝来）『源氏物語』を中心に」『源氏物語本文の研究』（豊島秀範編）、査読無、2011、49～80。

３．豊島秀範「アメリカ議会図書館本の和歌標記の特徴―和歌の一行散らし書きを中心に―」『平安文学研究』（國學院大學大学院）第２号、査読無、2010、88～96。

４．豊島秀範「『源氏物語』の本文の実態―「野分」巻―吉川史料館（毛利家伝来・大内家伝来）『源氏物語』を中心に―」『源氏物語本文の再検討と新提言』第４号、査読無、2011、135～164。

５．遠藤和夫「『首書源氏物語』所引『細抄』の室町語彙」『源氏物語本文の再検討と新提言』第４号、査読無、2011、145～160。

６．遠藤和夫「百二十句本『平家物語』の語学的考察」『國學院大學大学院紀要』第 42 輯、査読有、2011、１～23。

７．伊藤鉄也「新出『源氏物語（若菜上・残巻）』と本文分別に関する一考察」『日本古典文学研究の新展開』（伊井春樹編）笠間書院、査読無、2011、226～251。

８．伊藤鉄也「在英源氏物語画帖の絵と詞」『源氏物語本文の研究』（豊島秀範編）査読無、2011、7～27。

９．渋谷栄一「藤原定家筆「源氏物語」（四半本系原本４帖）の本文資料の再検討―」、『源氏物語本文の研究』（豊島秀範編）、査読無、2011、28～88。

10．渋谷栄一「岩国・吉川家本「源氏物語」と「七毫源氏」の巻頭目録と事書標題について」『源氏物語本文の再検討と新提言』第４号、査読無、2011、73～133。

11．上野英子「実践女子大学図書館所蔵「黒川文庫目録【新版】」（共著）『年報』（実践女子大学文芸資料研究所）第 30 号、査読無、2011、67～156。

12．田坂憲二「京都大学本系統『紫明抄』と内閣文庫本系統『紫明抄』」『源氏物語本文の研究』査読無、2011、89～117。

13．田坂憲二「内閣文庫本系統『紫明抄』の再検討」『源氏物語本文の再検討と新提言』第４号、査読無、2011、134～144。

14．中村一夫「日本語史上の大島本源氏物語」『日本古典文学研究の新展開』（伊井春樹編）、査読有、2011、130～150。

15．中村一夫「源氏物語諸本対照語彙表」『源氏物語本文の再検討と新提言』第４号、査読無、2011、235-280。

16．豊島秀範「吉川家本（毛利家伝来『源氏物語』）の目録と巻末注記―七毫源氏との比較―」『源氏物語本文の再検討と新提言』第３号、査読無、2010、91～104。

17．豊島秀範「久我家本『源氏物語』の特徴―画像の比較を通して―」『平安文学研究』（國學院大學大学院平安文学研究会）、第１号、査読無、2009、137～143。

18．豊島秀範「『夜の寝覚』の「なになり、袖の氷とけずは」の解釈をめぐって」『平安後期物語の新研究―寝覚と浜松を考える―』新典社、査読無、2009、172～184。

19．豊島秀範「物語と歌謡―狭衣物語に即して―」『國學院雑誌』（國學院大學）110 巻-11 号、査読無、2009、107～116。

20．遠藤和夫「大内家伝来『源氏物語』書写者の人々」『源氏物語本文の再検討と新提言』第３号、査読無、2010、105～112。

21．田坂憲二「太宰府への道のり―『源氏物語』と『高藤集』から―」『王朝文学と交通』竹林社、査読無、2009、229～255。

22．田坂憲二「桐壺院の年齢―与謝野晶子の「二十歳」「三十歳」説をめぐって―」『源氏物語の愉しみ』笠間書院、査読無、2009、53～71。

23．田坂憲二「小津本紳士録（二）」『本の手帳』第６巻、査読無、2009、24～33。

24．伊藤鉄也「傍記混入の実態から見える源氏物語諸本の位相―「常夏」の場合―」『物語の生成と受容』（国文学研究資料館編）第５号、2010、8～42。

25．中村一夫「陽明文庫本源氏物語の動詞」『古典語研究の焦点』武蔵野書院、査読有、2010、339～364。

26．大内英範「手習巻の本文」『源氏物語本文の再検討と新提言』第３号、査読無、2010、150～157。

27．豊島秀範「『源氏物語』と鎌倉時代物語―物語の収斂と変容―」『講座 源氏物語研究』第４巻、改訂版、おうふう、査読無、2008 、228～251。

28．豊島秀範「國學院大學と源氏物語研究―明治・大正期を中心に―」『國學院雑誌』109 巻－10 号、査読無、2008、189～202。

29. 遠藤和夫「『湖月抄』の註釈における当代語」『國學院雑誌』（國學院大學）109 巻－10 号、査読有、2008、1～10。
30. 伊藤鉄也「源氏物語本文の伝統と受容に関する試論―「須磨」における〈甲類〉と〈乙類〉の本文異同―」『源氏物語の新研究』新典社、査読有、2008、43～84。
31. 伊藤鉄也「海を渡った古写本『源氏物語』の本文―ハーバード大学蔵「蜻蛉」の場合―」『日本文学研究ジャーナル』（伊井春樹編・国文学研究資料館）第３号、査読無、2009、103～132。
32. 渋谷栄一「岩国・吉川家本「源氏物語」の巻頭目録と事書標記について 附翻刻」『高千穂論叢』（高千穂大学）43－1 号、査読無、2008、1～33。
33. 渋谷栄一「吉川家本「源氏物語」の巻末系図と人物呼称について 附翻刻」『高千穂論叢』（高千穂大学）43－2 号、査読無、2008、1～17。
34. 渋谷栄一「藤原伊行の『源氏物語』の註釈的発想」『平安文学の古注釈と受容』武蔵　野書院、査読無、2008、7～12。
35. 渋谷栄一「定家本「源氏物語」の生成過程について」『國學院雑誌』（國學院大學）109 巻-10 号、2008、99～110。
36. 渋谷栄一「国宝『源氏物語絵巻』「竹河」絵詞の表現世界について」『源氏物語の新研究―本文と表現を考える』新典社、査読無、2008、351～368。
37. 田坂憲二「（王朝文学に描かれる官職・位階と史実）摂政関白と左大臣」『王朝文学と官職・位階』（平安文学と隣接諸学４）、査読無、2008、431～450。
38. 田坂憲二「『源氏物語』の編年体的考察―光源氏誕生前後―」『源氏物語の展望』第４輯、三弥井書店、査読無、2008、46～77。
39. 田坂憲二「『源氏物語』の列伝的考察―頭中将の前半生―」『国語と国文学』85 巻-10 号、2008、1～15。
40. 豊島秀範「『源氏物語』と鎌倉時代物語―物語の収斂と変容―」『講座 源氏物語研究』おうふう、第４巻、査読無、2007、228～251。
41. 豊島秀範「『源氏物語』本文資料の再検討」『「國學院の学問」をひらく』（國學院大學國文學會編）査読無、2008、１～15。
42. 豊島秀範「河内本「平瀬家本」・「吉川家本」の実態―「花宴」巻―」『源氏物語本文の再検討と新提言』第１号、査読無、2008、113～122。
43. 田坂憲二「鎌倉時代の古注と本文―『紫明抄』引用本文を中心に―」『講座 源氏物語研究』第７巻、おうふう、査読無、2008、33～54 頁。
43. 田坂憲二「大島本『源氏物語』伝来の再検討」『源氏物語本文の再検討と新提言』第１号、査読無、2008、151～161。
44. 中村一夫「陽明文庫本源氏物語の待遇表現―別本とはどういう本文か―」『講座源氏物語研究』第７巻、おうふう、査読無、2008、981～23。
45. 中村一夫「源氏物語別本の性格―待遇表現から見た―」『国文学論輯』（国士舘大学国文学会）29 号、査読無、2008、25～45。
46. 渋谷栄一「定家本『源氏物語』の生成過程について―明融筆臨模本と大島本」『源氏物語本文の再検討と新提言』第１号、査読無、2008、141～150。
47. 遠藤和夫「吉川史料館本源氏物語の一特徴」『源氏物語本文の再検討と新提言』第１号、査読無、2007、23～130。
48. 伊藤鉄也「源氏物語本文に関する問題点」『源氏物語本文の再検討と新提言』第１号、査読無、2008、131～140。
49. 伊藤鉄也「〈河内本〉を志向した下田歌子の校訂本文」『講座 源氏物語研究』７巻、おうふう、査読無、2007、156～202。
50. 菅原郁子「『十帖源氏』試論」『源氏物語本文の研究』（豊島秀範編）査読有、2011、160～179。
51. 神田久義「米国議会図書館本『源氏物語』の書写形態に関する一試論」『源氏物語本文の研究』（豊島秀範編）査読有、2011、180～199。
52. 太田美知子「七毫源氏「須磨」巻の頭注「百詠注」について―破鏡の寓意がもたらすもの―」『源氏物語本文の研究』（豊島秀範編）、査読有、2011、148～159。
53. Maria Teresa ORSI「遠くから読む源氏物語」『源氏物語本文の再検討と新提言』第２号、査読無、2009、21～44。
54. Carolina NEGRI「恋と結婚の不安に苦悩する女性―紫の上の宿世―」『源氏物語本文の再検討と新提言』第２号、査読無、2009、149～160。

〔学会発表〕（計１２）

１．豊島秀範「源氏物語本文の特質―アメリカ議会図書館本を中心に―」源氏物語の本文資料共同研究会（第 16 回。国文研と共催）、2010 年９月 25 日、國學院大學。
２．豊島秀範「吉川家本（毛利家伝来）『源氏物語』の本文と注記」源氏物語の本文資料共同研究会（第 15 回）2010 年６月 12 日、國學院大學。

３．中村一夫「仮名テキストの文字遣」源氏物語の本文資料共同研究会（第 17 回）、2010 年 11 月 13 日、國學院大學。
４．中村一夫「日本語史上の大島本源氏物語」源氏物語の本文資料共同研究会（第 15 回）、2010 年 6 月 12 日、國學院大學。
５．豊島秀範「横断する日本文学「２　本文の変容」Final Discussion Moderator、2009 年９月 21 日、ケンブリッジ大学ロビンソンカレッジ。
６．大内英範「日本古典籍分類表の活用とコーニッキー版ユニオンカタログの新展開」EAJRS 2010 Conference　2009 年９月　17 日、英国 Norwich 市 Maides Head Hotel。
７．豊島秀範「絵でよむ源氏物語―「鈴虫」巻を中心に―」源氏物語の本文資料共同研究会（第８回）海外共同研究会、2008　年９月 13 日、イタリア ヴェネツィア大学。
８．豊島秀範「久我家嫁入本『源氏物語』　の特徴」イタリア フィレンツェ日本文学会「日本文学の起源に遡る：源氏物語の千年」2008 年９月 14 日、イタリア フィレ　ンツェ。
９．遠藤和夫「湖月抄の版本と活字本との狭間」源氏物語の本文資料共同研究会（第８回）、2008 年９月 11 日、イタリア ヴェネツィア大学。
10．豊島秀範「『源氏物語』本文資料の再検討」國學院大學國文學會秋季大会、2007 年 11 月 17 日、國學院大學。
11．渋谷栄一「明融筆臨模本「源氏物語」における「―事」書き標記について」中古文学会、2007 年５月 20 日、國學院大學。
12．遠藤和夫「国語学における言霊」國學院大學國文學會秋季大会、2007 年 11 月 18 日、國學院大學。

〔図書〕（計１０件）
１．豊島秀範編『源氏物語本文の研究』富士リプロ、2011 年、281 頁
２．豊島秀範（編著）『狭衣物語全註釈』Ⅴ（巻３上）おうふう、2010 年、443 頁。
３．豊島秀範（編著）『源氏物語本文の再検討と新提言』第４号、2011 年、325 頁。
４．上野英子（共著）『実践女子大学図書館蔵 「黒川文庫目録」【新版】』、実践所大学図書館発行、2011 年、285 頁。
５．豊島秀範（編著）『狭衣物語全註釈』Ⅳ（巻２下）、おうふう、2009 年、461 頁。
６．田坂憲二『源氏物語享受史考』風間書房書房、2009 年、597 頁。
７．豊島秀範（編著）『狭衣物語全註釈』Ⅲ（巻２上）、おうふう、2008 年、363 頁。
８．渋谷栄一『源氏物語を楽しむ本』主婦と生活社、2008 年、143 頁。
９．渋谷栄一『源氏物語の季節と物語その類型的表現』新典社、2008 年、159 頁。
10．豊島秀範『狭衣物語全註釈』Ⅱ（巻１下）おうふう、2007 年、369 頁。

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）
○取得状況（計０件）

〔その他〕
ホームページ等
http://www2.kokugakuin.ac.jp/projectg/

６．研究組織
(1)研究代表者
豊島秀範（TOYOSHIMA Hidenori）
國學院大學・文学部・教授
研究者番号：90133272
(2)研究分担者
遠藤和夫（ENDOU Kazuo）
國學院大學・文学部・教授
研究者番号：50054507
（H19→H20：連携研究者）
伊藤鉄也（ITOU Tetsuya）
国文学研究資料館・文学形成研究系教授
研究者番号：10232456
（H19→H20：連携研究者）
渋谷栄一（SHIBUYA Eiichi）
高千穂大学・商学部・教授
研究者番号：80162650
（H19→H20：連携研究者）
田坂憲二（TASAKA Kenji）
群馬県立女子大学・文学部・教授
研究者番号：70136406
（H19→H20：連携研究者）
中村一夫（NAKAMURA Kazuo）
国士舘大学・文学部・准教授
研究者番号：50407179
（H19→H20：連携研究者）
中川照将（NAKAGAWA Terumasa）
皇學館大学・文学部・准教授
研究者番号：20410920
（H19→H20：連携研究者）
(3)連携研究者
大内英範（OOUCHI Hidenori）
国文学研究資料館機関研究員
研究者番号：60462173
（H21 年度 連携研究者）
上野英子（UENO Eiko）
実践女子大学・文学部・教授
研究者番号：60205573
（H22 年度 連携研究者）